

## 第5章 社会全般

## 2ちゃんねる

1999年5月末、2ちゃんねるJump1は管理人・西村博之氏の個人サイトに付属するコンテンツの1つとして開設された。当初の参加者は数万人規模で、直後に起きた「東芝クレマー事件」や「東海村臨界事故」の速報によって一部の好事家からの支持を獲得し、現在の巨大掲示板へと続く第一歩を踏み出す。

## 無法地帯から300万人の掲示板へ

スタートから1年後の2000年は、ビットバレーに代表されるITブームが本格化した年であり、インターネットユーザーも1000万人の万台に乗り、人々の生活の中でインターネットは当たり前の存在になりつつあった。だが、この頃の2ちゃんねるの来訪者数は推計で20万～30万人レベルでしかない。佐賀バスジャック事件や横浜ハンマー殴打事件の犯行予告など、世間の耳目を集める事件との関係が深かったことで、2ちゃんねるはインターネットの無法者が集まるサイトというダークなイメージが形成されていた。ネットの陰の部分、アンダーグラウンドの代名詞としての認知であり、実際に訪問するのはためらう人が多かったに違いない。

ところが、この年の秋になって、2ちゃんねるの来訪者数が再び増え始める。各種のインターネット初心者向け雑誌が「2ちゃんねるの歩き方」のような企画を通じて、ダークなだけではない、普通の人々が活発に情報や意見を交換する場＝ネットコミュニティとしての2ちゃんねるの姿を紹介しはじめ、これに興味を持った人々が集まりだしたのである。仕掛け人は、自身が2ちゃんねるユーザーであった編集者やライターたちだった。

2001年3月には、日本生命が2ちゃんねるを訴える事件が起こる。由緒正しい大企業がアングラサイトの代表と見なされていた2ちゃんねるを訴えたということ

## 300万人の匿名掲示板「2ちゃんねる」拠点に参加者が作り出す“インサイドジャーナリズム”

で一般のメディアも大きく取り上げ、人々の興味をかき立てることになった。

これをきっかけに、1か月のユニークユーザー数が100万人を突破、2001年4月には月間のページビュー（PV）が2億5000万を超えた。その後間もなく200万人を超え、現在は推計で300万人前後のユーザーが利用している<sup>註1</sup>。この数字は日本のインターネット人口の7～8%が2ちゃんねるユーザーであることを意味する。個人運営の単一ドメインのサイトとしては間違いなく日本で最大である。

## ユーザーを長滞留させる魅力

約半年前、2ちゃんねるユーザーは平均して1日に約1時間滞留し、その間に800万～1000万のページビュー（PV）を稼ぎだすとされていたが、現在のPV公称値は1600万である。筆者が聞き取りをしただけでも、2ちゃんねる内の滞留時間が2～3時間は当たり前、1日に5～6時間をほぼ毎日というヘビーユーザーも少なくない。彼らは昼間は社会人として仕事をこなし、帰宅後にそそくさと食事・入浴を済ませるや、寝る間を惜しんで2ちゃんねる内を彷徨しているのである。

インターネットがコミュニケーション手段として利用される際の特徴としては、「双方向性」「即時性」「一対多の即時性」「同時多数アクセス可能」「匿名性」「情報受発信に際して障壁が低い」というものがあるが、2ちゃんねるはコミュニケーションの場として、このすべてを満たしている。例を挙げてみよう。

## ■続々と寄せられる“現場”情報

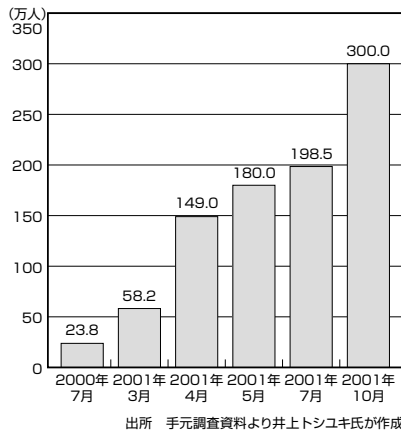
東海村事故や歌舞伎町火事、ニューヨークの自爆テロなどで顕著だったのだが、誰かがテレビやネット上での速報からの情報で事件が起きたと知るや、間髪入れずにニュース系の板にスレッドが立つ。総じて、わずかに2、3分後のことだ。こうし

たスレッドは間もなく中継放送の実況スレッドに様相を変え、事件の推移を気にかけるユーザーが口コミなどで集まり出す。NHKではこう、民放ではこう言っていると、それぞれのユーザーがなんとなく役割分担してスレッド上で情報を総合していく。同時に、現場に居合わせたユーザーが携帯電話などのモバイル機器を通じてアクセスし、様子を報告してくる。デジカメやデジカメ搭載の携帯電話で現場を撮影し、自分がドメインを持つサイトにアップロードする人物も現れる。現場近くに住むユーザーも駆け付けて事態の推移を報告する。“現場”は国内に限らない。海外からアクセスしているユーザーも決して少なくないのだ。

## ■専門情報の提供と多面的論評

一方、パソコンの前にいるユーザーのなかには、原子力や国際情勢の分野で専門性をもつ者や、事故が起きた土地に詳しい者もいる。趣味で詳しい者はもちろん、学生や教職員、関連産業の社員などだ。そこで、事件、事故に対する解説や関連する情報が掲載されているホームページの案内など周辺情報が提供され、それをまとめる者が出てくる。そうして事件、事故の輪郭やある程度の中身がわかり、ある程度落ち着いてくると、今度はおの

資料3-5-2 2ちゃんねるユーザー数の推移



おのの論評が始まる。そのなかには手前勝手な意見もあるのだが、「テレビではこう言っていたが、実際はこうだ」「新聞ではこうなっているが、それはこのように間違いだ」という、専門的な立場や実体験に根ざしたリアリティー溢れる指摘も登場してくる。

## 不正告発が可能なコミュニティ

さて、2ちゃんねるには、350にのぼる板（いた）と呼ばれるカテゴリがある。最初の訪問のきっかけが事件や事故であっても、趣味や生活情報などで興味を持てるトピックが必ず見つかる。なかには荒れているところもあるが、精緻で興味深い議論を重ねているスレッドや板も多く存在する。初心者向けに基本的な質問に専門家が答えるスレッドも用意されていたりするし、過去ログもあるので、マイペースで遡ってみることもできる。

ここには匿名で参加できるコミュニティが形成されているのである。ユーザーは日常の中ですっかり影が薄くなってしまったコミュニティへの参加欲——誰かと繋がっていたい、存在を認識されたい、話を聞いてもらいたいといった欲求を満たそうとして、ここに日参してい

るように思えてならない。昨年8月、2ちゃんねるが閉鎖危機に陥ったとき、ユーザー自身が2ちゃんねるという場を守り、存続させようと一致団結して行動したことも、それを示していると思う。

そのなかから、表面化しにくい不正の告発や、真摯な内部告発が登場する。発言の主は、職業記者でもなんでもない普通の人々だ。前述の日本生命の件も、発端は内部の人物によるスキャンダルの告発だった。最近の話題では、田口ランディ氏の盗作問題（一般書籍板）、社民党の秘書給与不正取得疑惑（議員、選挙板）など、一般メディアが取り上げるはるか前に話題になっていた。デジタルベンチャーのいい加減な内実の告発、掲示板の書き込みで著作権があるか否かを争った「ホテルジャンキーズ事件」も、2ちゃんねるから火がついたものだ。

## “Power to the people”の拠点として

“IT革命論”が盛りなりし頃、インターネットは情報革命、コミュニケーション革命を起こすと喧伝された。だが、既存のメディアや企業のなかから革命が起こることはついになかった。かつてアメリ

カではインターネットの本質は「Power to the people」であると言われたが、新世紀のコミュニケーション革命は、普通の人々の手によってなされつつある。2ちゃんねるは、日本におけるそのプラットフォームであると私は見ている。

この貴重なプラットフォームがいつまで存続するかは、管理人を含めて誰にも予想がつかない。ユーザー数が増え、社会的認知が進むにつれて、2ちゃんねるも一般社会における“常識”との折り合いを求められてきており、運営側も削除基準を厳しくするなどの対応を行っている。ただ、ある意味で2ちゃんねるこそが日本人の、とりわけ若年層のネチケットやリテラシー向上の装置ともなっていることを考えれば、いたずらに2ちゃんねるを敵視したり締め付けたりするのも正しい策ではないだろう。日本人にもっとも欠けている資質が主体性や自主性だとするならば、ここでは、一般社会よりもはるかにバランスがとれた形で、それが求められ、保証されているからである。

(井上トシユキ ライター)

 [www.zch.net/zch.html](http://www.zch.net/zch.html)

注1 ユーザー数などの数値は公表されている各種の調査結果に運営者側の調査を加味した推計値

### 資料3-5-3 2ちゃんねるの主なできごと

1999年	
5月	米国留学中だった西村博之氏（以下ひろゆき＝ハンドルネーム）が「2ちゃんねる」開設（30日説が有力だが、5月中旬説も）
6月	「しまじろうサイト閉鎖問題」に関連して、一部の2ちゃんねるユーザーがベネッセサイトで暴れる
7月	東芝クレマー事件用に「東芝サポート問題専用掲示板」設置。アクセス増加
8月	不正アクセス防止法、通信傍受法が成立。最初のサーバー移転
9月	東海村臨界事故が発生、リアルタイムでのウォッチが行われ、アクセス増加。ドンキホーテから誹謗中傷ありとクレーム。ひろゆき、アメリカより帰国
10月	「差別、同和問題」板が荒れたため閉鎖
11月	1000万アクセス突破
2000年	
1月	削除ガイドラインの策定始まる
4月	“管理人”を“管直人”と記述することについて民主党党首代理人を称する人物がクレーム。小金井市議サイトの掲示板が一部の2ちゃんねるユーザーによって攻撃される
5月	「ネオむぎ茶」を称する人物が佐賀バスジャックの犯行予告を書き込む。その8日後、「KILL AGAIN」と称する人物が横浜根岸線殴打事件の犯行予告を書き込む
9月	ユーザー有志がバイクチーム「Team2ch」を結成、レースに出場
12月	アダルト系の板が「PINKちゃんねる」として分離、独立。世田谷一家殺人事件の犯行声明ともとれる書き込みが発見される。ひろゆき、デビューシングルを発表
2001年	
2月	ひろゆきと切込隊長（ハンドルネーム）によるネットラジオ番組がスタート、11月に終了するまで毎週継続
3月	21日、日本生命が保険業界板の書き込み削除を求めて仮処分申請。その後、日生不買運動、内部告発が続く
4月	ユーザー有志が「白血病解析プロジェクトTeam2ch」への参加呼びかけ開始。一般書籍板に田口ランディ氏盗作検証スレッド登場、02年5月現在、パート28まで進行
6月	一般書籍板にホテルジャンキーズ著作権侵害関連の最初のスレッドが立ち、問題本格化（それ以前は国内旅行板にスレッド）。2ちゃんねる2周年記念イベント開催
7月	京大生が開設していたサイトにあった「レイプ日記」が問題に。週刊誌が取り上げ、京大が謝罪。西和彦氏とアスキーの話題を中心にした通称・西タンスレ（ベンチャー板）が人気に
8月	24日、日生裁判で決定が下る。26日、2ちゃんねる閉鎖危機機動発
9月	谷沢動物病院が名誉毀損（ペット板の書き込み）を理由に提訴
10月	5日、西和彦氏、あめぞう氏が「1ch.tv」開局。2ちゃんねるユーザーの悪戯書き込みでサーバーダウン。2ちゃんねる事業化が発表されるも、その後戻つばみ
12月	21日、ヤフーオークションに不正アクセスした2ちゃんねるユーザー逮捕。「2ちゃんねる宣言 挑発するメディア」（文芸春秋）発売

出所 筆者作成



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)